

【目的】 私達の住む環境気候、地域により異なり、同一地域でも季節によって変化する。そこで、環境の相違による着用衣服を把握するため、前回中国内モンゴル自治区フホト市における冬季の成人男女の着用衣服を調査し日本との比較を試みた、今回は同地域における春季の成人男女の着用衣服について調査した。内モンゴルの春季は風が強く、乾燥し一日の温度差が最高で15℃と激しい。そこで、このような寒冷地域の春季における着衣状態の実態調査を行い、日本における着衣と比較検討することにより内モンゴル地域における衣服の特徴を調査検討した。

【方法】 調査地域：中国内モンゴル自治区フホト市、調査対象：専門学校の男子学生21名、女子学生23名（年齢18～22才） 調査期間：1995.4.18（室内18℃、30%RH、戸外15℃、20%RH） 調査概要：1)年齢、身長、体重 2)気温、湿度（室内、戸外）、寒冷感覚 3)着装衣服（上衣、下衣、類被服）着装順位、重量、形態、素材など

【結果】 内モンゴル春季における男性の一般的な服装「上衣」肌着、シャツ、セーター、ジャケット「下衣」ブリーフ、ズボン下、ズボン「類被服」マフラー、手袋、靴下、靴、ベルト（平均着衣重量：室内1259gf、室外1858gf） 女性の一般的な服装「上衣」ブレイザー、肌シャツ、ブラウス、Tシャツ、セーター、ジャケット「下衣」ショーツ、ズボン下（綿と毛の2枚）、ズボン「類被服」マフラー、手袋、靴下、靴、ベルト（平均着衣重量：室内1600gf、室外2140gf）